

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493500029		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホーム のどか	ユニット名	のどか A
所在地	宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字浦宿81番4		
自己評価作成日	平成 24年 9月 20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年5月、増築により定員15名での受け入れとなりました。理念である「あなたらしさ」を大切にまた、以前の自分を取り戻していただけるよう日々の暮らしをサポートしていきます。。心から笑いあえる暮らしと安らげる家。職員は利用者の混乱しない生活を守り共に暮らしていく。家族の一員として人生の先輩を敬い「みなさんを頼りにしています。」という気持ちを忘れず支援をしています。施設入所を躊躇していたご家族の方には来る度に生き生きとして暮らすご本人の姿を見て安心していただけるよう施設や職員との信頼関係を深めて行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

震災後JR代行バス運行になった万石浦畔浦宿駅近くに位置している。人生の先輩を尊敬し、知恵を拝借しますの理念を基に、入居者の持てる能力を充分引き出し支援に活かしている。廊下も広くゆったりとした空間は高級感が漂う近代的設計である。震災時全職員が身を捨て入居者を守った話を聞かされた。個々の居室の入口に保安帽がかけられ、震災に負けない前向きな姿勢がうかがわれる。同法人永楽会の”特養おながわ”がすぐ近くにあり、施設内研修、季節折々の行事参加等協力体勢にある。町の行政の熱意もあり、震災後の環境の変化で認知症の高齢者が増える傾向の中、当事業所はその受け皿としての期待が大きい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームのどか

)「ユニット名 のどかA 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活や今までの暮らしが持続できるような理念を掲げている。常に自分だったらということを想定し穏やかで混乱のない暮らしがサポートできるよう実践している。	「人生の先輩を敬い知恵を学ぶ、安らげる家・笑いあえる暮らしを築く、これまでの暮らしを大切に家族との絆を深める、馴染の関係を作り地域との交流を図る」の理念を掲げ、職員、管理者が共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に工場地帯に囲まれていて近所付き合いや日常的な交流は出来ていない環境にある。挨拶程度や利用者を見かけたときには声を掛けていただけようをお願いしている。	開設して間もない事業所だけに地域との交流は熟成されていない。また震災後地域の絆も崩れた環境の中ではあるが、行政区長の支援もあり、地域の行事に積極的に参加、又情報誌”のどか瓦版”を配り努力している。	関係良好な女川町福祉課の窓口を通し行政区長の支援を頂きながら、交番や隣接している工場の事業主等を引込み、繋がりを深めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア研修、中学生の職場体験の受け入れを行い、施設での役割や認知症の方々への接し方、支援方法等助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では活動報告や意見交換会を行い、ケア会議の場で再確認を行っている。	町福祉課、地域包括、区長、家族代表、特養おながわ他が出席し開催している。町から仮設での対応が難しい方の入居依頼、天気の良い日の外出、家族交流会の開催等活発な会議録を確認した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報交換や利用者間の相談、ボラ研修を通して協力し合い連携を図っている。	認知症研修会、小中学生徒の職場体験、キャラバンメイト研修会等の開催。日常的に町の行政窓口との連携は密に協力関係が築かれており、外部評価訪問時に町係長が同行した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの習慣や特性を知り、可能な限り付き合うことを原則に玄関の施錠は夜間のみとしている。職員は利用者に合わせて対応方法を身につけている。	職員一人ひとりが身体拘束による弊害を理解し、ケアの実践に取り組んでいる。日中の玄関の施錠は勿論のこと「ダメはなしよ」の合言葉で自由にのんびり暮らせるようサービスに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者には小さいことでも報告をすること、職員は他職員のシグナルを察しお互いが助け合うことで負担を抱えないよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し勉強の機会がある。また後見人に話を聞く機会もあるが、まだまだ職員の理解度は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査時の不安や疑問は契約時に説明を行い理解ができるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部事務局にはお極様相談室がある。また面会にいらしたときにはご家族の要望や意見を聞き、要望に添えるように努めている。	家族交流会、推進会議等で意見や要望が気軽に言える環境が築かれている。又家族の訪問時には利用者の生活の状況等を説明、尚、家族の意見要望をよくを聞き、サービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は必要に応じて個別に話を聞き助言できる機会を設けている。また理事長の個人面談もあり順次行っている。	定例の会議にて職員の提案や意見をよく聞き出している。又介護申し送りノートに介護における仔細な疑問や提案が記録されていて、それを全職員が共有し、更にそれらを管理者が整理吸収しサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は資格に応じた手当を支給して。実務経験や実績を踏まえて資格取得への働きかけや研修への参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では学ぶ機会がたくさんあり、できる限り職員が参加できるようにしている。また業務の中では個々の能力に応じ得意分野での業務に役割と責任が持てるよう分担をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会がなく出来ていない。今後は連絡協議会等へ参加しサービスの質を向上していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることによるご本人のストレスが最小限に抑えられるよう、ご本人の訴えを聞き要望に添うこと。そして家族の協力を得ながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは蜜に連絡を取り合い施設に気軽に足を運んでいただけることで信頼関係を築く。暮らしや施設の理念をお話することで安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定のケアプランを立て精神状態の把握を行い、施設に馴染み安心した暮らしが早期に実現できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立を促しできる部分がたくさんあることを自覚していただく。家族の一員として頼りにしていますと言う気持ちを常に表現している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は協力的で関係は良好である。通院や外出等また施設内での行事にも参加していただくことで絆を断たないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	震災の影響で馴染みの場がなくなってしまい交流の機会が少ないのが現状となっているが美容院や商店に足を運び交流を図っている。	震災後戻りつつある馴染みの工場、床屋、商店、又はかかりつけ病院等の交流に積極的に支援している。入居者のほとんどが町内出身だけに関係継続はスムーズに行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況、その場の雰囲気を感じ職員は仲立ちとなりトラブルにならないように配慮している。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所も工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援や相談に応じて行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中や会話から本人の要望や希望を把握している。	入居者と関わる時間の中からスキンシップをはかり本人の要望や不満を読み取る。又一緒の生活、掃除、洗濯、食事をしながらの世間話やこれまで生きて来た生活歴の中から何がしたいのかを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族との歓談の中から今までの暮らしや生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録への記載、申し送りノートの活用、健康チェックを行い状態把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしや身体、精神状態の把握は毎日行っており、月に1回のケア会議、担当者会議を行い6ヶ月に1度のケアプランの見直し、更新を行っている。	アセスメントシート151から課題検討しケアプラン(1)(2)が策定され、長期、短期の目標が設定されている。定期的にケア会議、担当者会議、診療記録、介護日誌からモニタリングを行い見直し更新を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記載を行い職員間で共有し、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの支援は多様で日によっても対応方法が変わってくる。その場での解決やその時の安心していただくような支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	震災を受け地域資源も減少している。改めて地域資源の把握と協働の体制作りを図っていききたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の病院を協力機関として緊急時や定期受診でお世話になっている。また利用者の希望により訪問診療もお願いしている。	協力医療機関として女川町地域医療センターへ定期通院、緊急外来受診、依頼によっては訪問診療もある。通院には職員が付き添い診察結果は家族に報告し記録として残し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設の看護師が月に1度の健康相談と称して訪問している。施設内のできる範囲の助言をもらい、健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での自立状況を把握していただき、退院に向けては自立に向けての生活リハビリや機能訓練をしていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設には看護師の配置はなく、終末期についてご家族はバックアップ施設への入居を希望している。今後の課題としてご家族の要望をしっかりと聞き施設での取り組みを検討していきたい。	平成24年5月に、目標達成計画を1年間を目標に掲げた。以後、重度化や終末期について法人内で方針を決めるべく取組み中である。	開設して間もない事業所で事例も無いが、今後の課題として重度化や終末期を迎えた場合の、事業所で出来る事、出来ない事の方針を決めて、入居者や家族の安心に繋げていきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や救命処置についての勉強会があり、あつ程度の知識は身につけている。また定期診察の際に医師より助言をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今回の体験をもとに、災害に対しての避難や備えについて検討を重ね、再度マニュアルの見直しを図っている。避難訓練も定期的実施している。	この度マニュアル、特に連絡網の改訂版を作成。区長を始め地域住民に呼び掛け消防署立会いの下、夜間想定避難訓練を2回実施した。備蓄の非常食や備品を使い庭で炊き出し訓練、食し、その出来栄も味わった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけないようにまた周囲の誤解を招かないよう配慮し、丁寧な言葉遣いと穏やかな声かけを心掛けている。時に家族になったり、友人になったりと状況に応じて対応できるようにしている。	人生の大先輩として敬いプライバシーを損ねないように寄添い、利用者の目線に立って静かな言葉で対応している。時には家族になり、お嫁さんになり、親しい友人になり入居者の気持ちに同調し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の状況、その場の雰囲気を感じ職員は仲立ちとなりトラブルにならないように配慮している。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所も工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先はしないというのが原則、まずは利用者様と一緒にという支援を最優先にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の髪型や服装の好みを尊重している。また、こまめに整容(散髪・髭剃り・爪切り等)の声掛け支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しから同行していただき、希望を取り入れながら楽しめるような食事作りをしている。また、調理や配膳などその方のできる事をしていただいている。	食事は最大の楽しみの一つで、食材の買出し調理、配膳、片付け等利用者の能力を活かして、職員と共に和やかに行っている。希望により外食や誕生日祝や四季折々の行事食には特別メニューを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は常に気を配っている所であり個人の状態にあわせて確保している。食事形態や嚥下状態も個々に把握し完食できる量や形態での提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は本人に任せケア用品の補充や義歯等の相談に乗っている。毎食後の口腔ケアはしていないが、起床、就寝時には口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録と申し送りにより排泄リズムを把握し、トイレ案内やシグナルを察知し可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを掴み、紙おむつを布パンツに変えたり、オープンパンツの人を誘導し、トイレでの排泄をする事により、おむつの使用を減らしたり等、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、定期での軽運動を行ない(自由参加)出来る限り参加していただくよう働きかけている。また、バランスの良い食事作りを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望のある方に対しては出来る限りその時間に提供できるよう職員配置をしている。曜日は固定せず、必要時や清潔保持のため入浴も重視して提供している。	入居者の希望を聞き曜日は固定しないで好きな時間に入浴できるよう支援している。入浴を拒む人には、職員を変えたり、同性の人が誘導する等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方の生活リズムを把握した上で、状況に合わせ昼寝や就寝時間の配慮を行っている。安眠や熟睡ができるよう日中の活動や生活リズムの見直しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来れば薬(特に精神薬)は減らしたいというのが施設での考え方であり、その都度かかりつけの医師と相談しながら、服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事を見つけて、やっていただくよう働きかけている。また、楽しみごとは出来る限り実現するよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に添って積極的に行っている。また、こどもからも様々な場所を提案し外出していただけるよう働きかけている。	天気の良い日は日常的に散歩に出掛け、社協ボランティアの歌を聞きに、蒲鉾店のイベントのハワイアン歌と踊り、落語家の話等。先月は少し遠出の定義山に出掛けた。その他上品の郷の足湯、女川町の復旧後の再開した食堂で外食等々に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の管理ができる方へは現金の所持をしていただいている。自分で日用品の買い物をする方、宝くじの購入を楽しみにしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に添い電話や手紙のやり取りは自由にしていただいている(ご家族の了承や協力もいただきながら…)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居場所が認識できるようまた、気持ちよく過ごせるよう工夫している。広いリビングは間仕切りや目隠しをして周囲から離れて過ごせる空間も作っている。	空調設備が良く調節されていて、臭気や空気のおよみがなく快適である。廊下も広く天井も高く高貴な雰囲気のある建築である。木造デッキからは陽が燦々と射し明るい。庭には適当な広さの入居者が楽しみの一つの菜園があり、季節野菜の自給自足も可能である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、テレビの配置を工夫し、それぞれの方が居心地の良い場所として過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただき、その方の好みや個性を尊重した居室になるようご家族にも協力を求めているが、理解をしていただくのは困難と感じている。	居室はそれぞれ好きな飾りをして、趣味の絵や写真、花が飾られ、部屋の手前に屏風が置かれホッとするとするプライベートゾーンになっている。入口には入居者の分かり易い飾りのついた名前が下げ工夫の跡がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた設えができるよう担当職員は工夫している。できる事や分かることを前提にドアの開放や照明などの使い方も工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493500029		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホーム のどか	ユニット名	のどか B
所在地	宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字浦宿81番4		
自己評価作成日	平成24年9月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年5月、増築により定員15名での受け入れとなりました。理念である「あなたらしさ」を大切にまた、以前の自分を取り戻していただけるよう日々の暮らしをサポートしていきます。。心から笑いあえる暮らしと安らげる家。職員は利用者の混乱しない生活を守り共に暮らしていく。家族の一員として人生の先輩を敬い「みなさんを頼りにしています。」という気持ちを忘れず支援をしています。施設入所を躊躇していたご家族の方には来る度に生き生きとして暮らすご本人の姿を見て安心していただけるよう施設や職員との信頼関係を深めて行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

震災後JR代行バス運行になった万石浦畔浦宿駅近くに位置している。人生の先輩を尊敬し、知恵を拝借しますの理念を基に、入居者の持てる能力を充分引き出し支援に活かしている。廊下も広くゆったりとした空間は高級感が漂う近代的設計である。震災時全職員が身を捨て入居者を守った話を聞かされた。個々の居室の入口に保安帽がかけられ、震災に負けない前向きな姿勢がうかがわれる。同法人永楽会の”特養おながわ”がすぐ近くにあり、施設内研修、季節折々の行事参加等協力体勢にある。町の行政の熱意もあり、震災後の環境の変化で認知症の高齢者が増える傾向の中、当事業所はその受け皿としての期待が大きい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームのどか

)「ユニット名 のどかB」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活や今までの暮らしが持続できるような理念を掲げている。常に自分だったらということを想定し穏やかで混乱のない暮らしがサポートできるよう実践している。	「人生の先輩を敬い知恵を学ぶ、安らげる家・笑いあえる暮らしを築く、これまでの暮らしを大切に家族との絆を深める、馴染の関係を作り地域との交流を図る」の理念を掲げ、職員、管理者が共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に工場地帯に囲まれていて近所付き合いや日常的な交流は出来ていない環境にある。挨拶程度や利用者を見かけたときには声を掛けていただけようをお願いしている。	開設して間もない事業所だけに地域との交流は熟成されていない。また震災後地域の絆も崩れた環境の中ではあるが、行政区長の支援もあり、地域の行事に積極的に参加、又情報誌”のどか瓦版”を配り努力している。	関係良好な女川町福祉課の窓口を通し行政区長の支援を頂きながら、交番や隣接している工場の事業主等を引込み、繋がりを深めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア研修、中学生の職場体験の受け入れを行い、施設での役割や認知症の方々への接し方、支援方法等助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では活動報告や意見交換会を行い、ケア会議の場で再確認を行っている。	町福祉課、地域包括、区長、家族代表、特養おながわ他が出席し開催している。町から仮設での対応が難しい方の入居依頼、天気の良い日の外出、家族交流会の開催等活発な会議録を確認した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報交換や利用者間の相談、ボラ研修を通して協力し合い連携を図っている。	認知症研修会、小中学生徒の職場体験、キャラバンメイト研修会等の開催。日常的に町の行政窓口との連携は密に協力関係が築かれており、外部評価訪問時に町係長が同行した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの習慣や特性を知り、可能な限り付き合うことを原則に玄関の施錠は夜間のみとしている。職員は利用者に合わせて対応方法を身につけている。	職員一人ひとりが身体拘束による弊害を理解し、ケアの実践に取り組んでいる。日中の玄関の施錠は勿論のこと「ダメはなしよ」の合言葉で自由にのんびり暮らせるようサービスに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者には小さいことでも報告をすること、職員は他職員のシグナルを察しお互いが助け合うことで負担を抱えないよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し勉強の機会がある。また後見人に話を聞く機会もあるが、まだまだ職員の理解度は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査時の不安や疑問は契約時に説明を行い理解ができるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部事務局にはお極様相談室がある。また面会にいらしたときにはご家族の要望や意見を聞き、要望に添えるように努めている。	家族交流会、推進会議等で意見や要望が気軽に言える環境が築かれている。又家族の訪問時には利用者の生活の状況等を説明、尚、家族の意見要望をよくを聞き、サービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は必要に応じて個別に話を聞き助言できる機会を設けている。また理事長の個人面談もあり順次行っている。	定例の会議にて職員の提案や意見をよく聞き出している。又介護申し送りノートに介護における仔細な疑問や提案が記録されていて、それを全職員が共有し、更にそれらを管理者が整理吸収しサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は資格に応じた手当を支給して。実務経験や実績を踏まえて資格取得への働きかけや研修への参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では学ぶ機会がたくさんあり、できる限り職員が参加できるようにしている。また業務の中では個々の能力に応じ得意分野での業務に役割と責任が持てるよう分担をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会がなく出来ていない。今後は連絡協議会等へ参加しサービスの質を向上していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることによるご本人のストレスが最小限に抑えられるよう、ご本人の訴えを聞き要望に添うこと。そして家族の協力を得ながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは蜜に連絡を取り合い施設に気軽に足を運んでいただけることで信頼関係を築く。暮らしや施設の理念をお話することで安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定のケアプランを立て精神状態の把握を行い、施設に馴染み安心した暮らしが早期に実現できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立を促しできる部分がたくさんあることを自覚していただく。家族の一員として頼りにしていますと言う気持ちを常に表現している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は協力的で関係は良好である。通院や外出等また施設内での行事にも参加していただくことで絆を断たないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	震災の影響で馴染みの場がなくなってしまう交流の機会が少ないのが現状となっているが美容院や商店に足を運び交流を図っている。	震災後戻りつつある馴染みの工場、床屋、商店、又はかかりつけ病院等の交流に積極的に支援している。入居者のほとんどが町内出身だけに関係継続はスムーズに行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況、その場の雰囲気を感じ職員は仲立ちとなりトラブルにならないように配慮している。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所も工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援や相談に応じて行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中や会話から本人の要望や希望を把握している。	入居者と関わる時間の中からスキンシップをはかり本人の要望や不満を読み取る。又一緒の生活、掃除、洗濯、食事をしながらの世間話やこれまで生きて来た生活歴の中から何がしたいのかを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族との歓談の中から今までの暮らしや生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録への記載、申し送りノートの活用、健康チェックを行い状態把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしや身体、精神状態の把握は毎日行っており、月に1回のケア会議、担当者会議を行い6ヶ月に1度のケアプランの見直し、更新を行っている。	アセスメントシート151から課題検討しケアプラン(1)(2)が策定され、長期、短期の目標が設定されている。定期的にケア会議、担当者会議、診療記録、介護日誌からモニタリングを行い見直し更新を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記載を行い職員間で共有し、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの支援は多様で日によっても対応方法が変わってくる。その場での解決やその時の安心していただくような支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	震災を受け地域資源も減少している。改めて地域資源の把握と協働の体制作りを図っていききたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の病院を協力機関として緊急時や定期受診でお世話になっている。また利用者の希望により訪問診療もお願いしている。	協力医療機関として女川町地域医療センターへ定期通院、緊急外来受診、依頼によっては訪問診療もある。通院には職員が付き添い診察結果は家族に報告し記録として残し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設の看護師が月に1度の健康相談と称して訪問している。施設内のできる範囲の助言をもらい、健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での自立状況を把握していただき、退院に向けては自立に向けての生活リハビリや機能訓練をしていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設には看護師の配置はなく、終末期についてご家族はバックアップ施設への入居を希望している。今後の課題としてご家族の要望をしっかりと聞き施設での取り組みを検討していきたい。	平成24年5月に、目標達成計画を1年間を目標に掲げた。以後、重度化や終末期について法人内で方針を決めるべく取組み中である。	開設して間もない事業所で事例も無いが、今後の課題として重度化や終末期を迎えた場合の、事業所で出来る事、出来ない事の方針を決めて、入居者や家族の安心に繋げていきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や救命処置についての勉強会があり、あつ程度の知識は身につけている。また定期診察の際に医師より助言をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今回の体験をもとに、災害に対しての避難や備えについて検討を重ね、再度マニュアルの見直しを図っている。避難訓練も定期的実施している。	この度マニュアル、特に連絡網の改訂版を作成。区長を始め地域住民に呼び掛け消防署立会いの下、夜間想定避難訓練を2回実施した。備蓄の非常食や備品を使い庭で炊き出し訓練、食し、その出来栄も味わった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけないようにまた周囲の誤解を招かないよう配慮し、丁寧な言葉遣いと穏やかな声かけを心掛けている。時に家族になったり、友人になったりと状況に応じて対応できるようにしている。	人生の大先輩として敬いプライバシーを損ねないように寄添い、利用者の目線に立って静かな言葉で対応している。時には家族になり、お嫁さんになり、親しい友人になり入居者の気持ちに同調し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の状況、その場の雰囲気を感じ職員は仲立ちとなりトラブルにならないように配慮している。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所も工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先はしないというのが原則、まずは利用者様と一緒にという支援を最優先にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の髪型や服装の好みを尊重している。また、こまめに整容(散髪・髭剃り・爪切り等)の声掛け支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しから同行していただき、希望を取り入れながら楽しめるような食事作りをしている。また、調理や配膳などその方のできる事をしていただいている。	食事は最大の楽しみの一つで、食材の買出し調理、配膳、片付け等利用者の能力を活かして、職員と共に和やかに行っている。希望により外食や誕生日祝や四季折々の行事食には特別メニューを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は常に気を配っている所であり個人の状態にあわせて確保している。食事形態や嚥下状態も個々に把握し完食できる量や形態での提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は本人に任せケア用品の補充や義歯等の相談に乗っている。毎食後の口腔ケアはしていないが、起床、就寝時には口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録と申し送りにより排泄リズムを把握し、トイレ案内やシグナルを察知し可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを掴み、紙おむつを布パンツに変えたり、オープンパンツの人を誘導し、トイレでの排泄をする事により、おむつの使用を減らしたり等、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、定期での軽運動を行ない(自由参加)出来る限り参加していただくよう働きかけている。また、バランスの良い食事作りを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望のある方に対しては出来る限りその時間に提供できるよう職員配置をしている。曜日は固定せず、必要時や清潔保持のための入浴も重視して提供している。	入居者の希望を聞き曜日は固定しないで好きな時間に入浴できるよう支援している。入浴を拒む人には、職員を変えたり、同性の人が誘導する等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方の生活リズムを把握した上で、状況に合わせ昼寝や就寝時間の配慮を行っている。安眠や熟睡ができるよう日中の活動や生活リズムの見直しもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来れば薬(特に精神薬)は減らしたいというのが施設での考え方であり、その都度かかりつけの医師と相談しながら、服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事を見つけて、やっていただくよう働きかけている。また、楽しみごとは出来る限り実現するよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に添って積極的に行っている。また、こどもからも様々な場所を提案し外出していただけるよう働きかけている。	天気の良い日は日常的に散歩に出掛け、社協ボランティアの歌を聞きに、蒲鉾店のイベントのハワイアン歌と踊り、落語家の話等。先月は少し遠出の定義山に出掛けた。その他上品の郷の足湯、女川町の復旧後の再開した食堂で外食等々に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の管理ができる方へは現金の所持をしていただいている。自分で日用品の買い物をする方、宝くじの購入を楽しみにしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に添い電話や手紙のやり取りは自由にしていただいている(ご家族の了承や協力もいただきながら…)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居場所が認識できるようまた、気持ちよく過ごせるよう工夫している。広いリビングは間仕切りや目隠しをして周囲から離れて過ごせる空間も作っている。	空調設備が良く調節されていて、臭気や空気のよどみがなく快適である。廊下も広く天井も高く高貴な雰囲気のある建築である。木造デッキからは陽が燦々と射し明るい。庭には適当な広さの入居者が楽しみの一つの菜園があり、季節野菜の自給自足も可能である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、テレビの配置を工夫し、それぞれの方が居心地の良い場所として過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただき、その方の好みや個性を尊重した居室になるようご家族にも協力を求めているが、理解をしていただくのは困難と感じている。	居室はそれぞれ好きな飾りをして、趣味の絵や写真、花が飾られ、部屋の手前に屏風が置かれホッとするとするプライベートゾーンになっている。入口には入居者の分かり易い飾りのついた名前が下げ工夫の跡がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた設えができるよう担当職員は工夫している。できる事や分かることを前提にドアの開放や照明などの使い方も工夫している。		